

福岡県地球温暖化対策実行計画 (第2次) の進捗状況について

令和8年5月13日

福岡県環境審議会 地球温暖化対策実行計画専門委員会 事務局

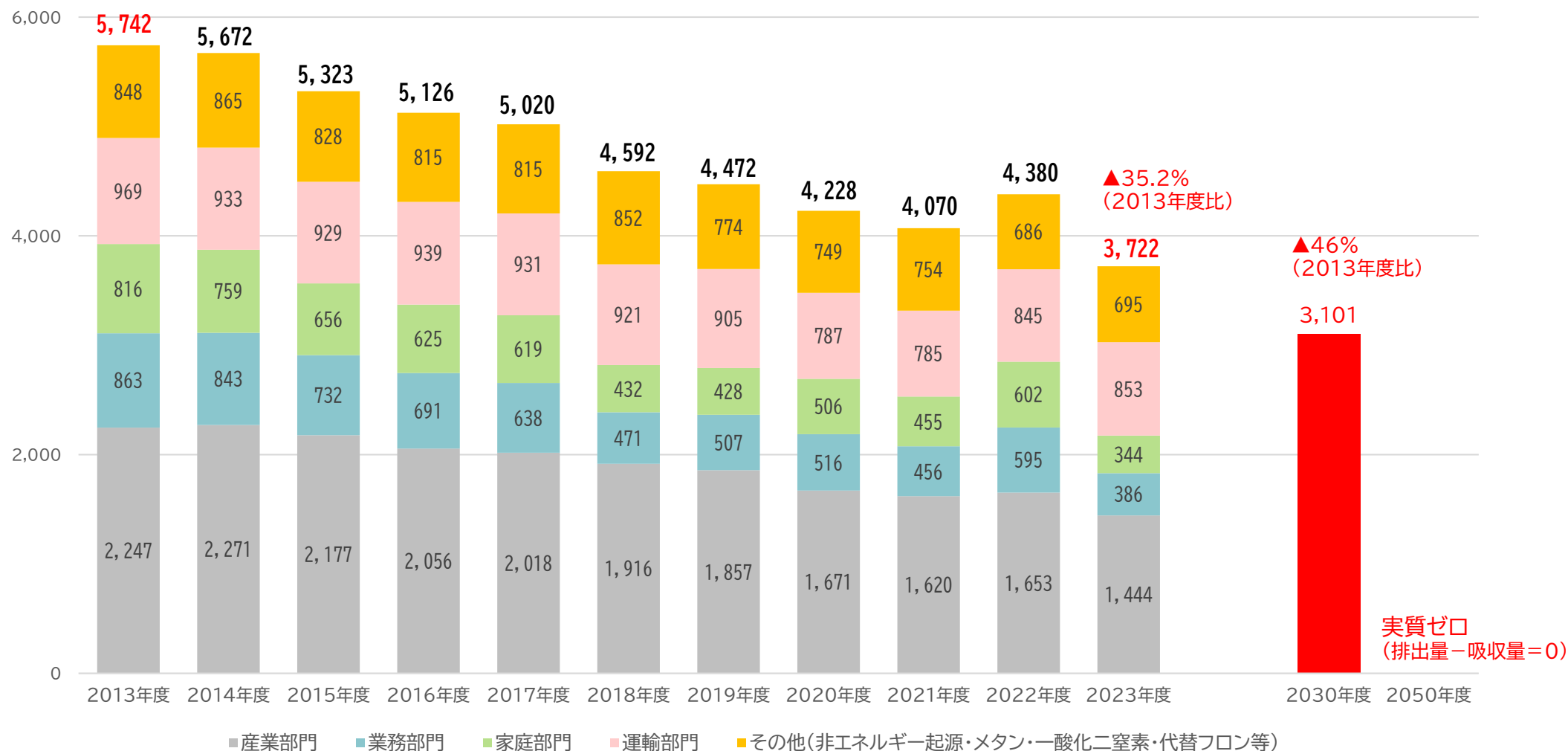
(福岡県 環境部 脱炭素社会推進課)

1. 福岡県地球温暖化対策実行計画の基本的事項

計画の位置付け	本県における地球温暖化対策を総合的・計画的に推進するための施策大綱であり、県民、事業者、行政の各主体が積極的に取組を行うための指針（平成29年3月策定、令和4年3月改定）
目標	<p><福岡県の温室効果ガス排出量の削減目標></p> <p>【長期目標】 2050（令和32）年度に福岡県の温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す。</p> <p>【中期目標】 2030（令和12）年度における福岡県の温室効果ガス排出量を2013（平成25）年度比46%削減する。</p> <p><部門別の目標></p> <p>【家庭】 2030年度における1世帯当たりのCO₂排出量を2013年度比69%削減（エネルギー消費量削減の目安：37%削減）</p> <p>【業務】 2030年度における事業所の床面積当たりのCO₂排出量を2013年度比60%削減（エネルギー消費量削減の目安：20%削減）</p> <p>【自動車】 2030年度における使用自動車1台当たりのCO₂排出量を2013年度比37%削減</p> <p>【エネルギー】 2026年度の再生可能エネルギー発電設備導入容量を405万kWにする</p> <p>【廃棄物】 2025年度における一般廃棄物の総排出量を2018年度比で5%削減</p>

2. 温室効果ガス排出量の推移

(万トン-CO₂)



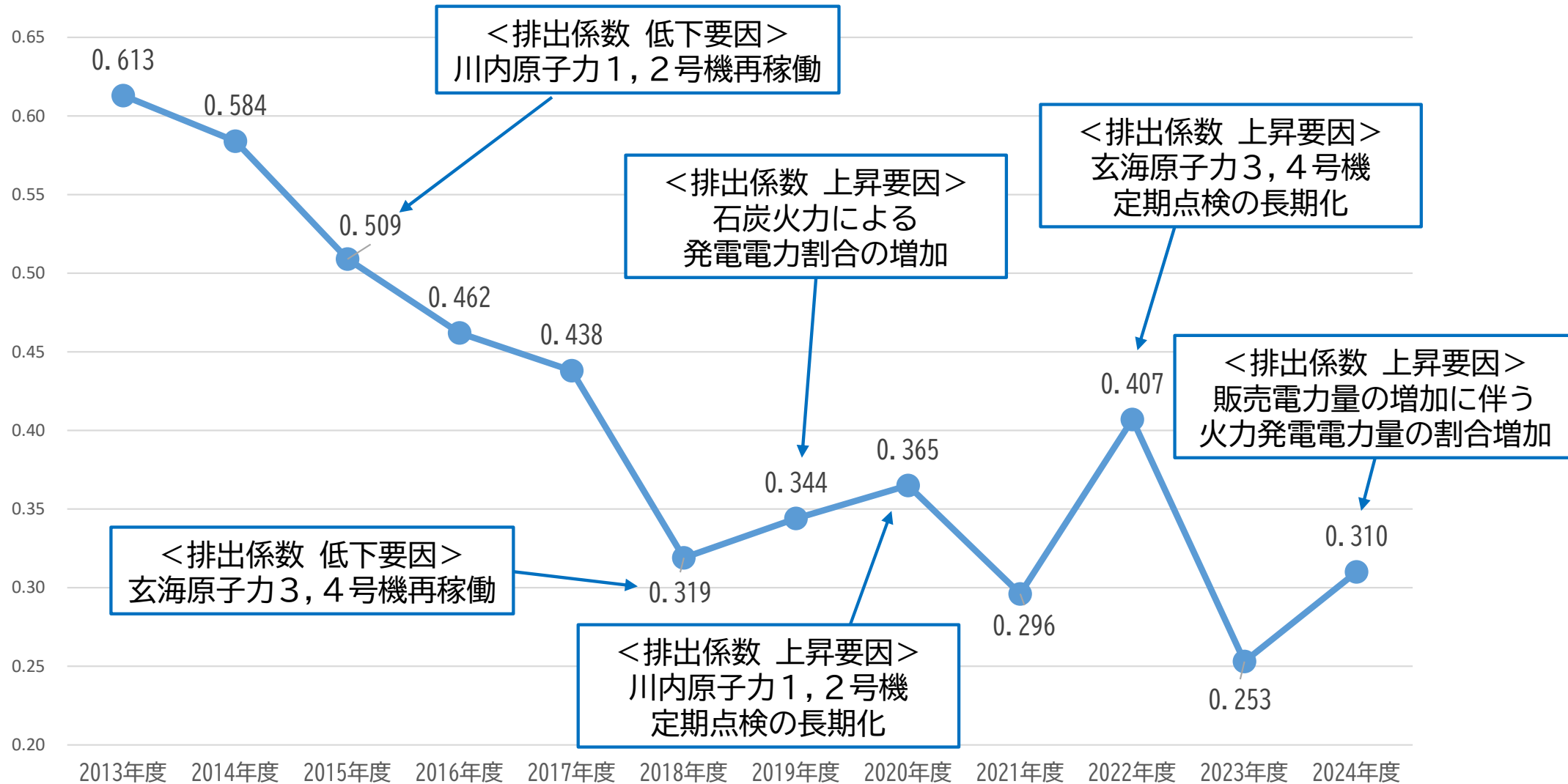
※ 端数処理の関係で、合計が合わない場合がある

- 2023年度の温室効果ガス排出量は3,722万トン-CO₂で、基準年度(2013年度)比で35.2%減少
- 2030年度の中期目標の達成に向け、温室効果ガス排出量の削減が順調に進んでいる。

※ 電力使用に伴う温室効果ガス排出量の算定方法を過去分に遡って見直している(国の算定方法との整合を図りました)

<参考> 電気使用に伴う二酸化炭素排出係数の推移(九州電力)

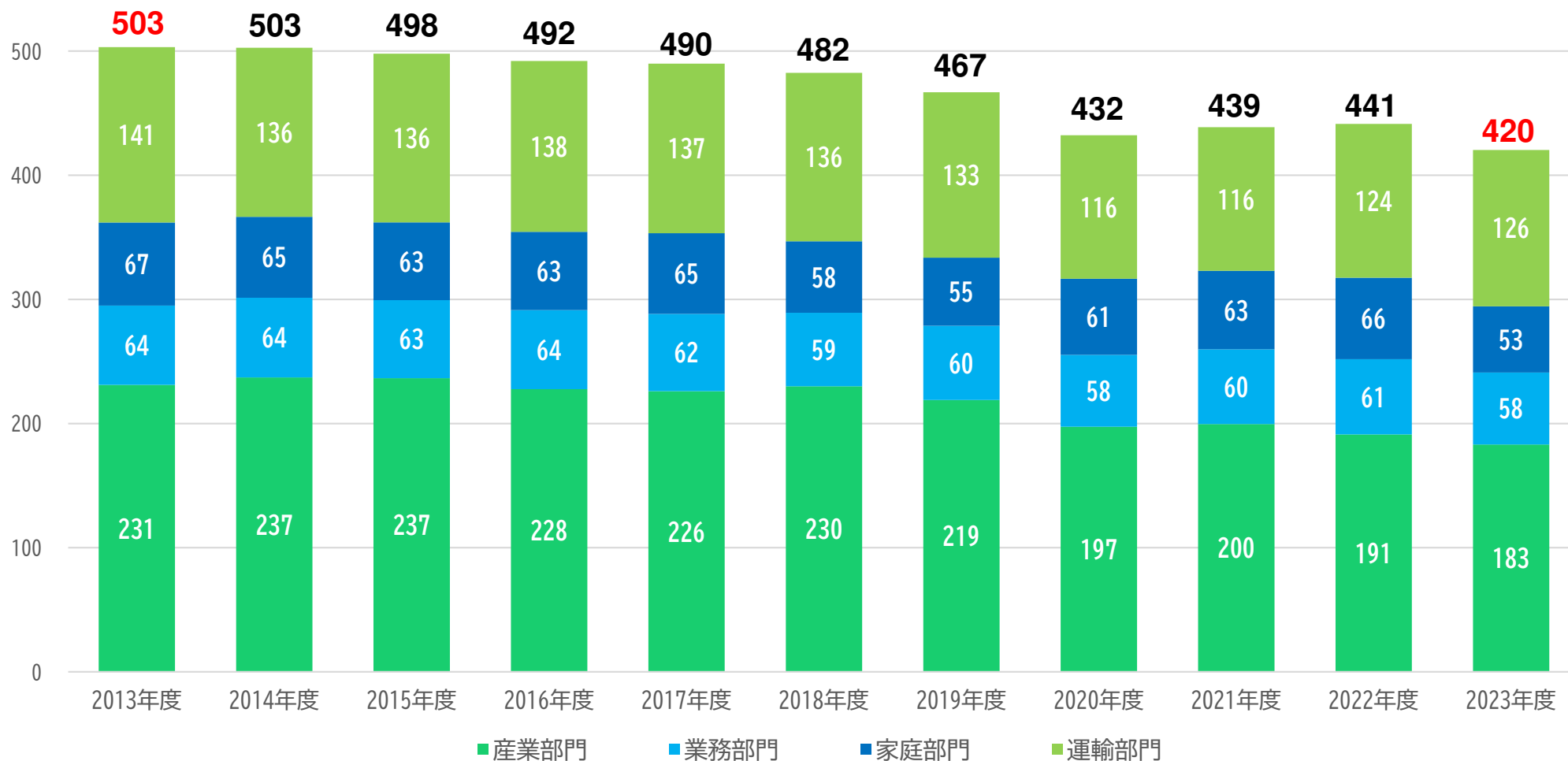
単位: kg-CO₂/kWh



○ 2023年度は、玄海原子力発電所の稼働率の向上等により、電気使用に伴うCO₂排出係数が前年度比で37.8%減少

<参考> エネルギー消費量の推移

(PJ)



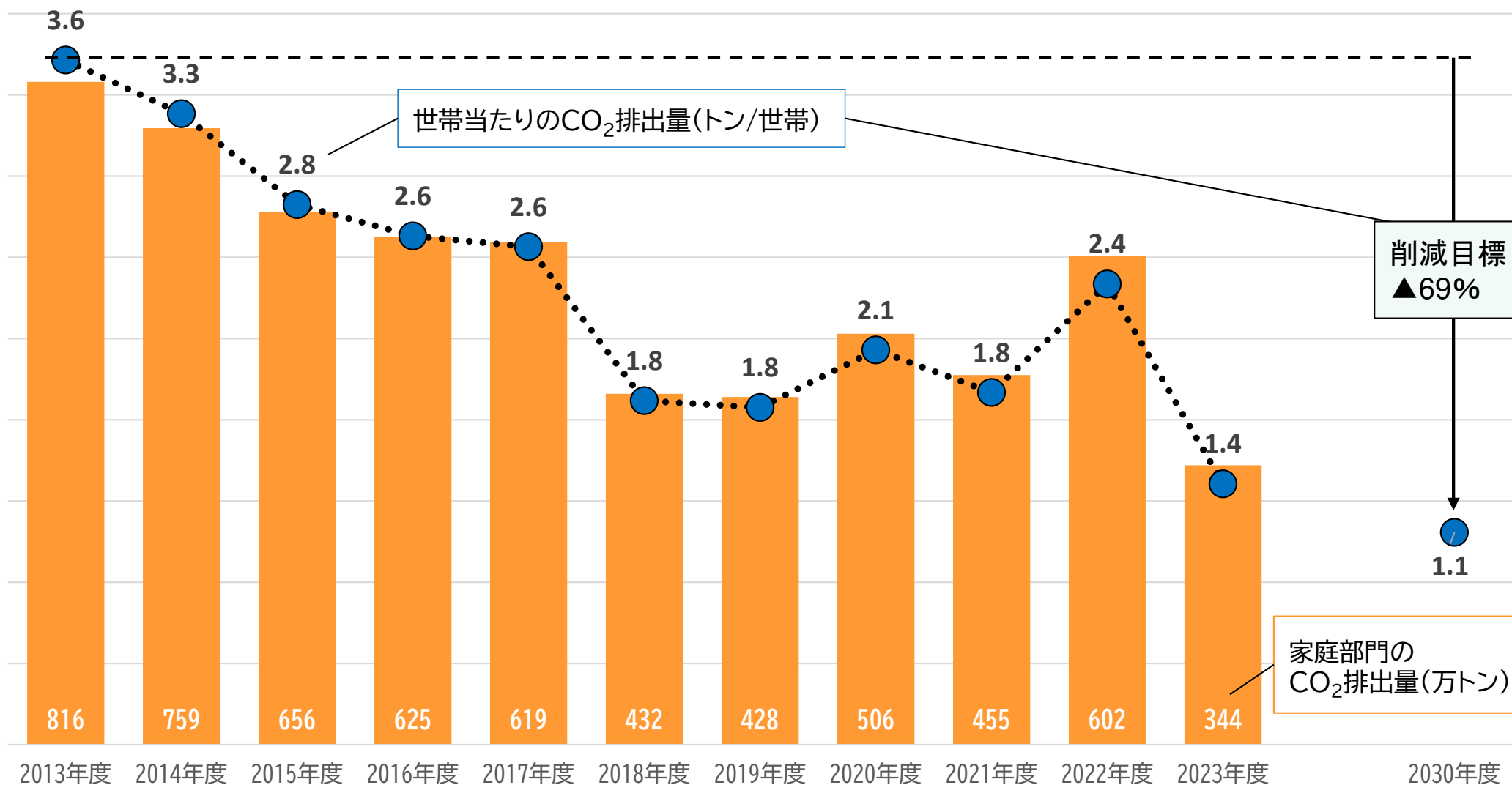
※ 端数処理の関係で、合計が合わない場合がある

○ 2023年度のエネルギー消費量※は420PJと、基準年度(2013年度)比で16.5%減少

※ エネルギー転換部門を除くエネルギー起源の最終エネルギー消費量

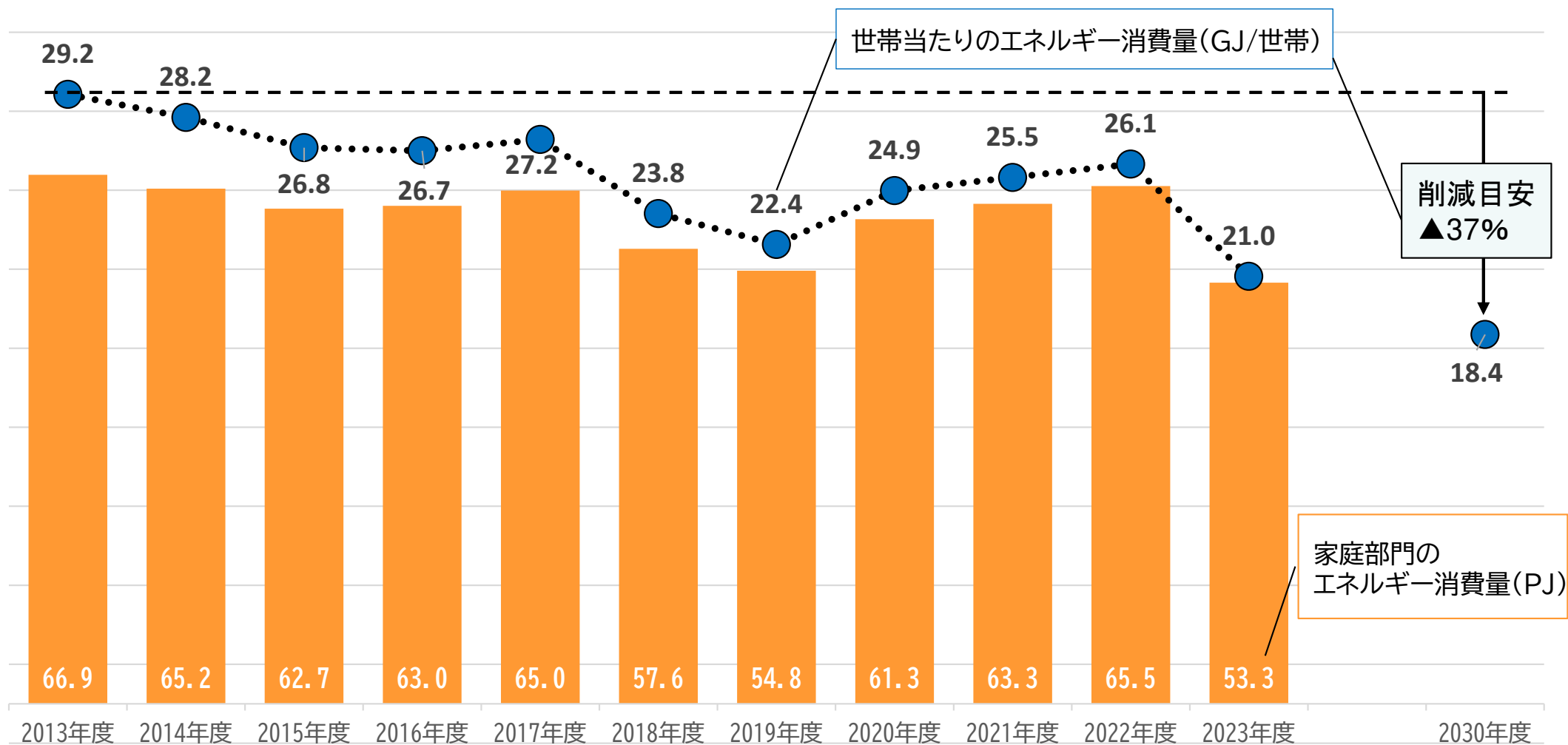
○ エネルギー消費量は概ね減少傾向にあるが、経済の回復等に伴う人の移動の増加により、2023年度の運輸部門におけるエネルギー消費量は前年度から若干増加

3-1. 家庭部門のCO₂排出量の推移



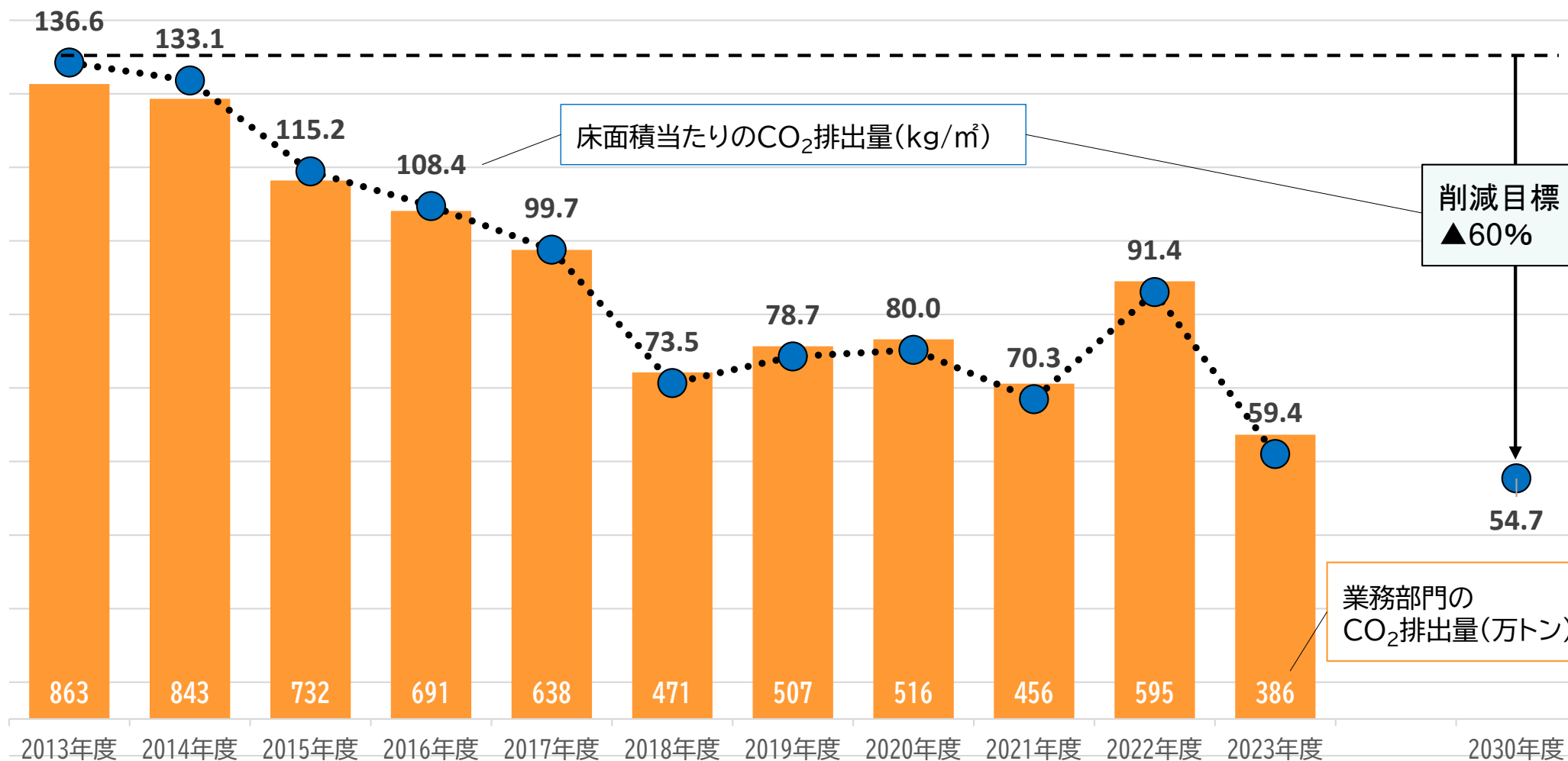
- 2023年度の世帯当たりのCO₂排出量は1.4トンと、基準年度(2013年度)比で61.9%減少
- 世帯当たりのCO₂排出量は、エネルギー利用効率の向上や電力使用に伴うCO₂排出係数の低減により概ね減少傾向

3-2. 家庭部門のエネルギー消費量の推移



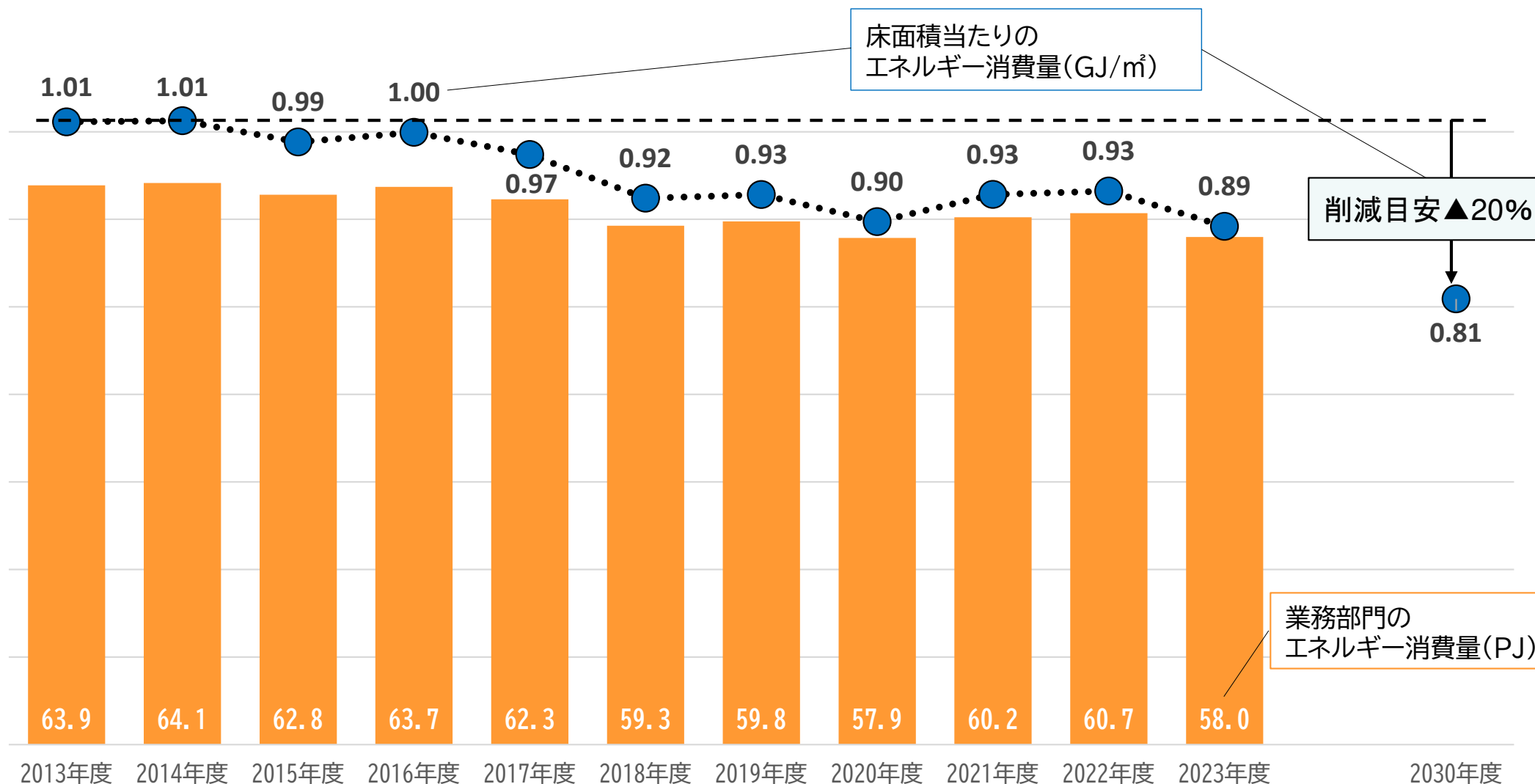
- 2023年度の世帯当たりのエネルギー消費量は21.0GJと、基準年度(2013年度)比で28.0%減少
- 世帯当たりのエネルギー消費量は、省エネ意識の高まりや高効率設備の導入等により概ね減少傾向

3-3. 業務部門のCO₂排出量の推移



- 2023年度の床面積当たりのCO₂排出量は59.4kg/m²と、基準年度(2013年度)比で56.5%減少
- 床面積当たりのCO₂排出量は、エネルギー利用効率の向上や電力使用に伴うCO₂排出係数の低減、燃料種の転換(A重油の使用減等)により概ね減少傾向

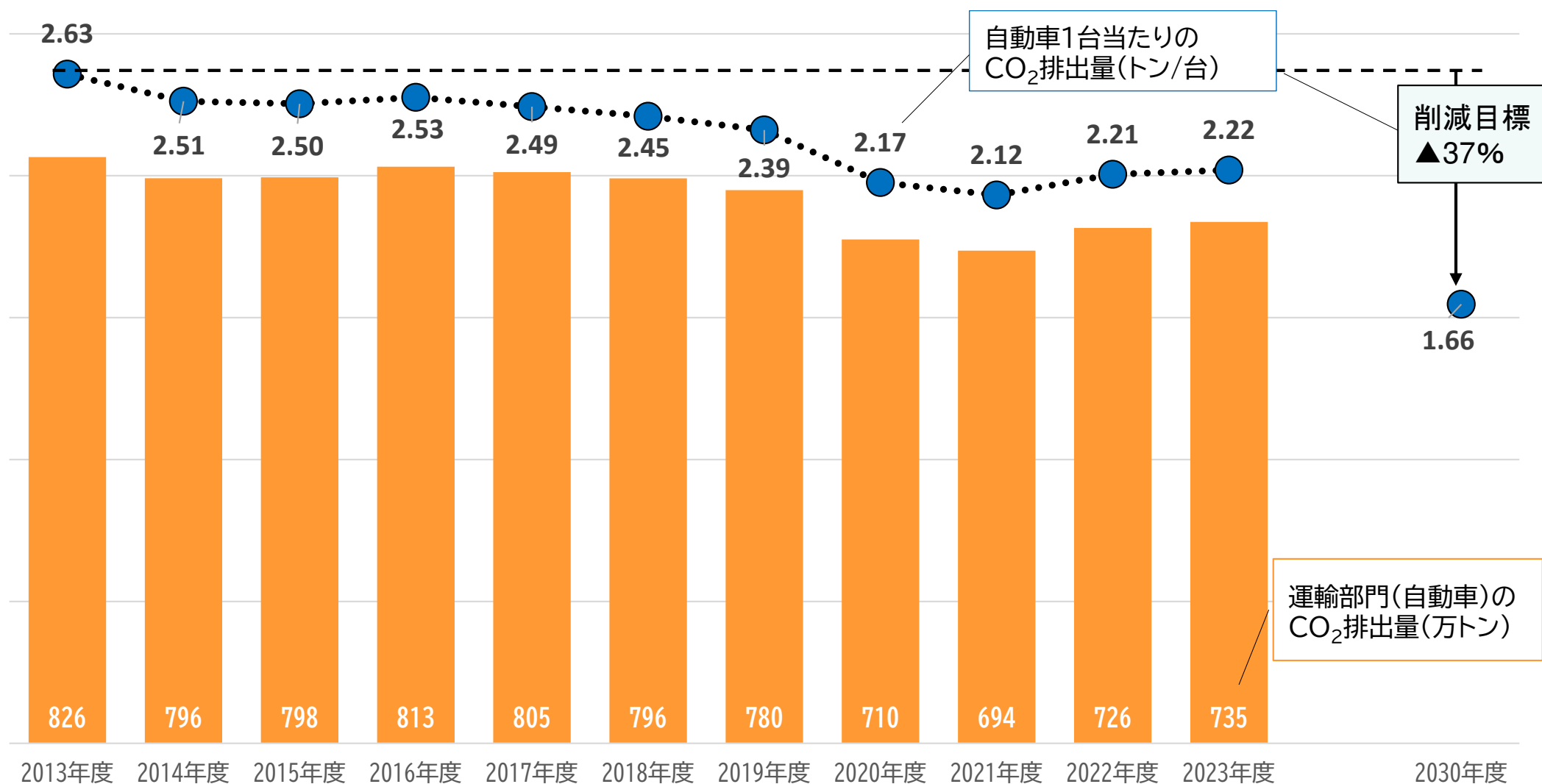
3-4. 業務部門のエネルギー消費量の推移



○ 2023年度の床面積当たりのエネルギー消費量は0.89GJ/m²と、基準年度(2013年度)比で11.8%減少

○ 業務部門のエネルギー消費量は、エネルギー利用効率の向上等に伴い概ね減少傾向にある

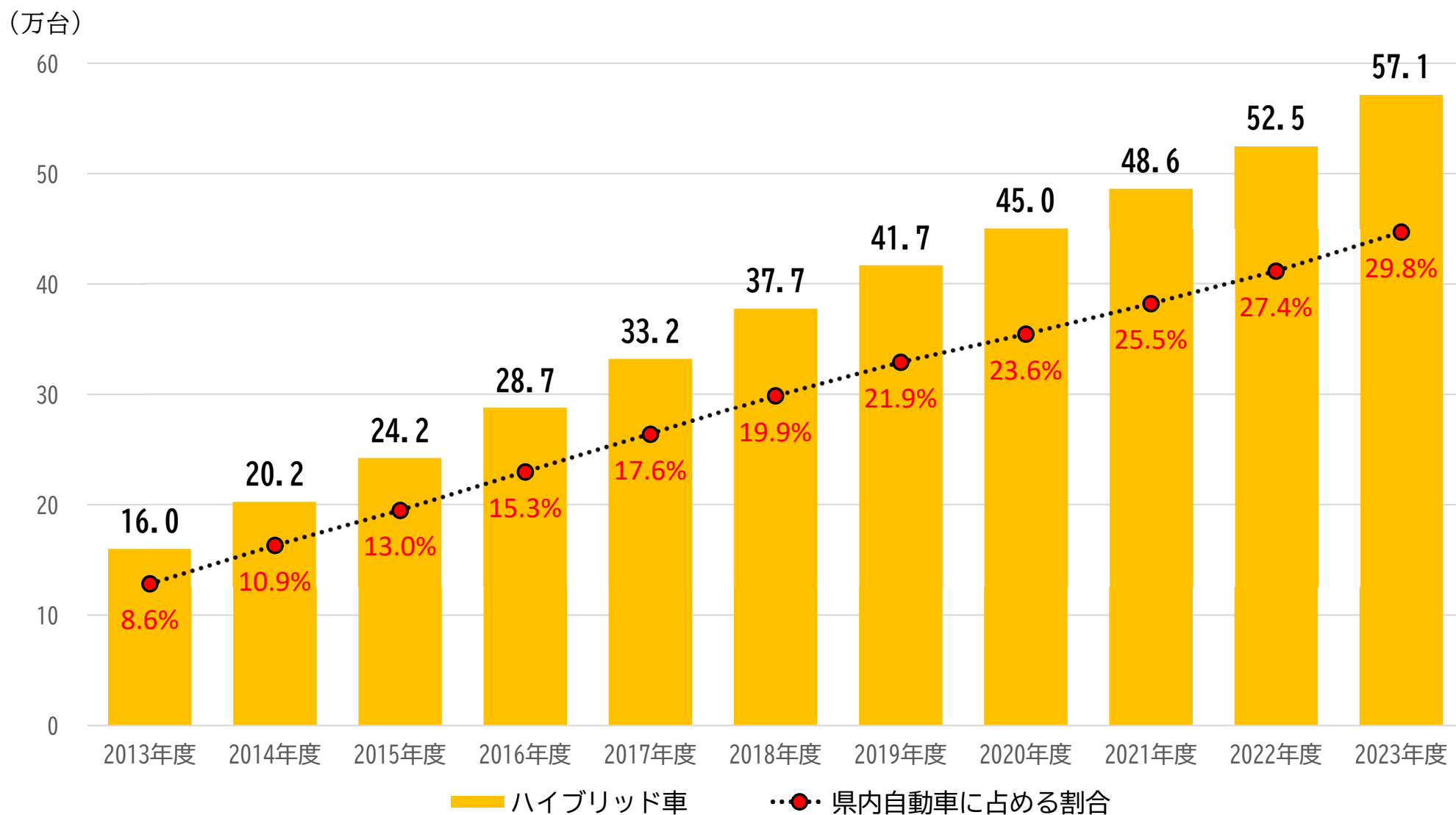
3-5. 運輸部門(自動車)のCO₂排出量の推移



- 2023年度の自動車1台当たりのCO₂排出量は2.22トンと、基準年度(2013年度)比で15.4%減少
- 自動車1台当たりのCO₂排出量は、電動車の普及や車両本体の燃費改善等により概ね減少傾向にあるが、経済の回復等に伴う人の移動の増加により近年は微増傾向

<参考>ハイブリッド車(HV)の普及状況

※大型特殊自動車、被けん引車、軽自動車は除く

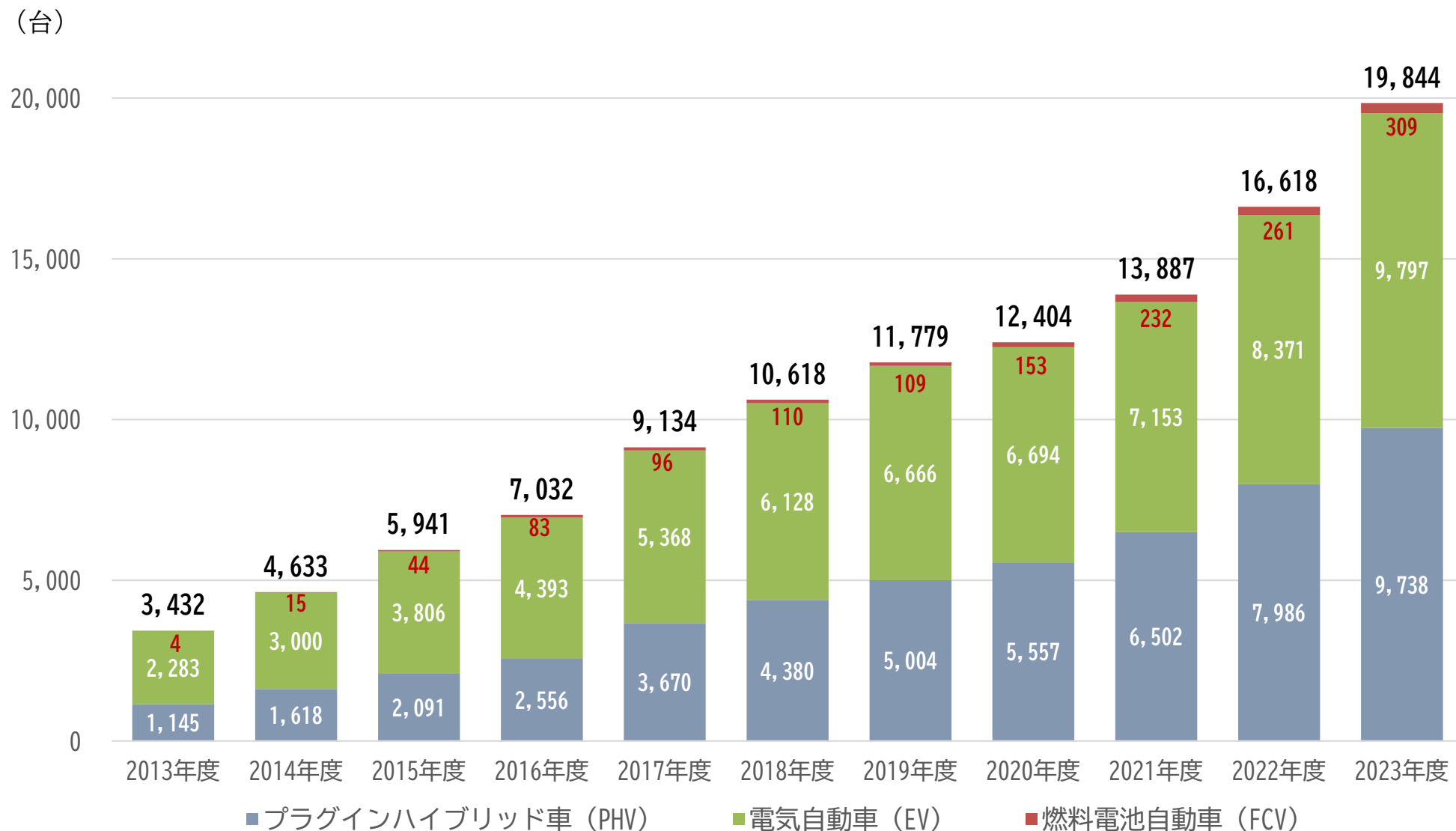


出典：九州運輸局資料を基に福岡県環境部脱炭素社会推進課にて作成

○ 2023年度のHVの導入台数は約57.1万台と、自動車保有台数の29.8%を占めており、引き続き増加傾向

<参考>プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)の普及状況

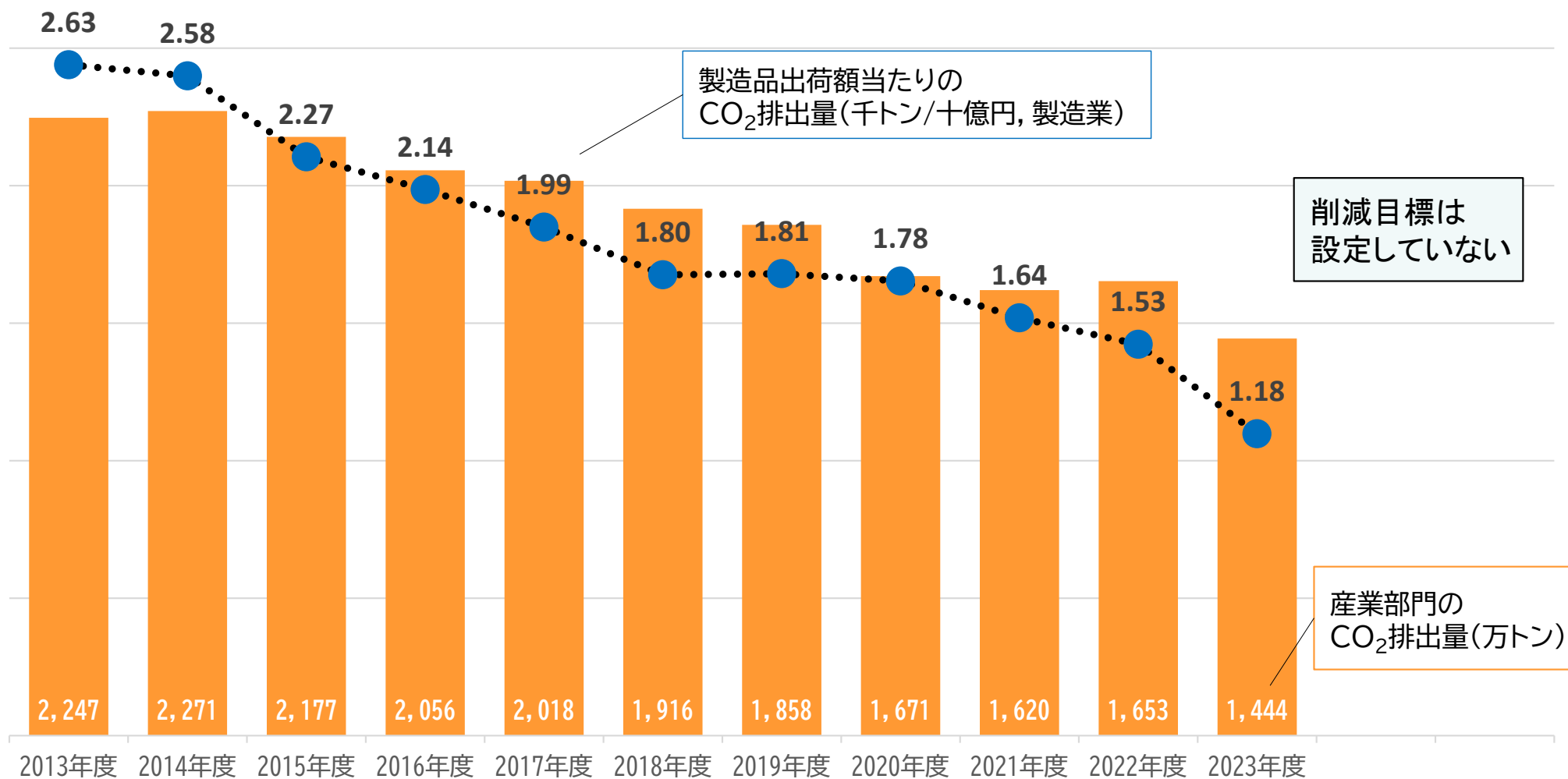
※大型特殊自動車、被けん引車、軽自動車は除く



出典：九州運輸局資料を基に福岡県環境部脱炭素社会推進課にて作成

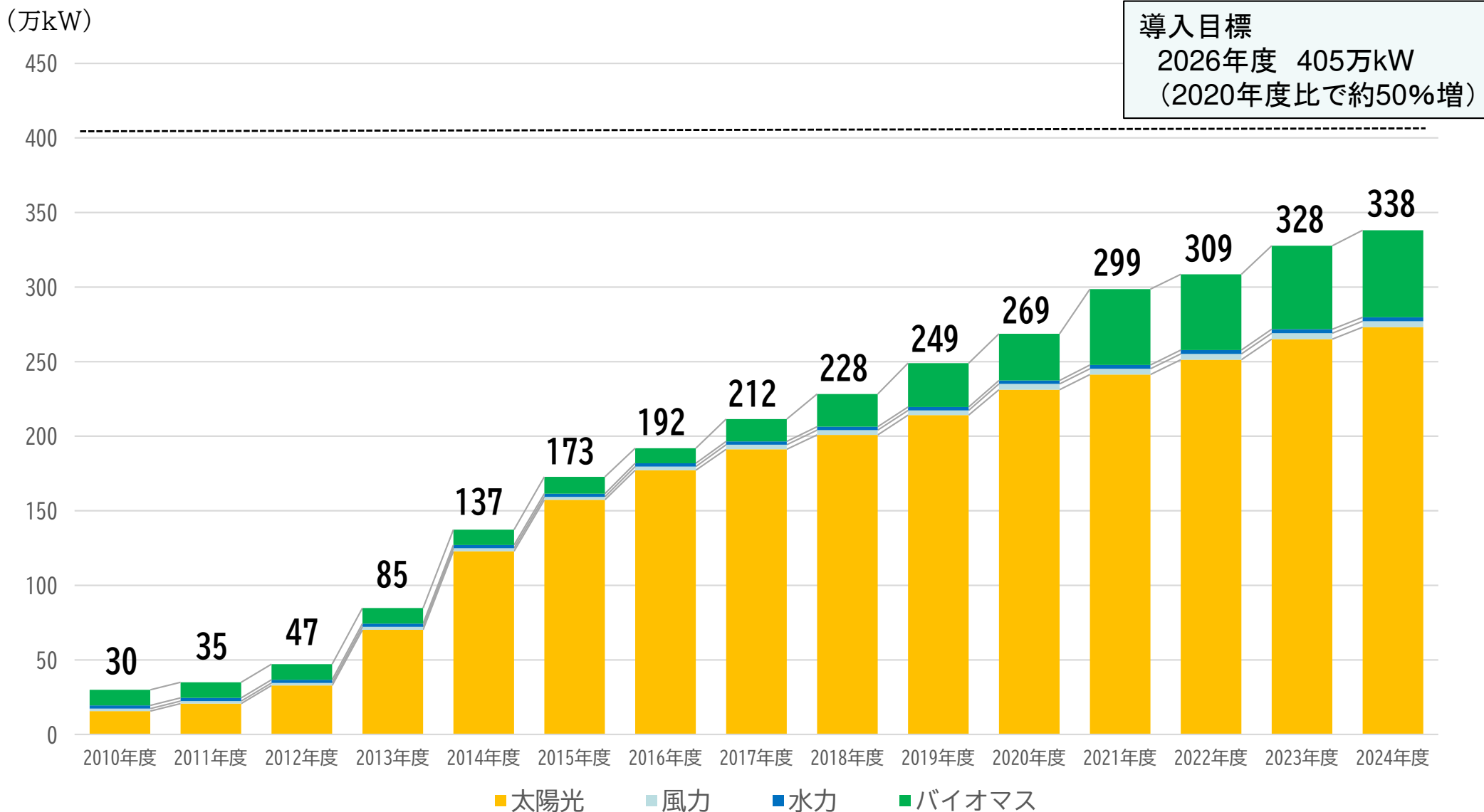
○ 2023年度のPHV、EV、FCVの導入台数は約2万台であり、引き続き増加傾向

3-6. 産業部門のCO₂排出量の推移



- 2023年度の産業部門のCO₂排出量は1,444万トンと、基準年度(2013年度)比で35.7%減少
- 2023年度の製造品出荷額当たりのCO₂排出量(製造業)は1.18千トン/十億円と、基準年度(2013年度)比で55.0%減少

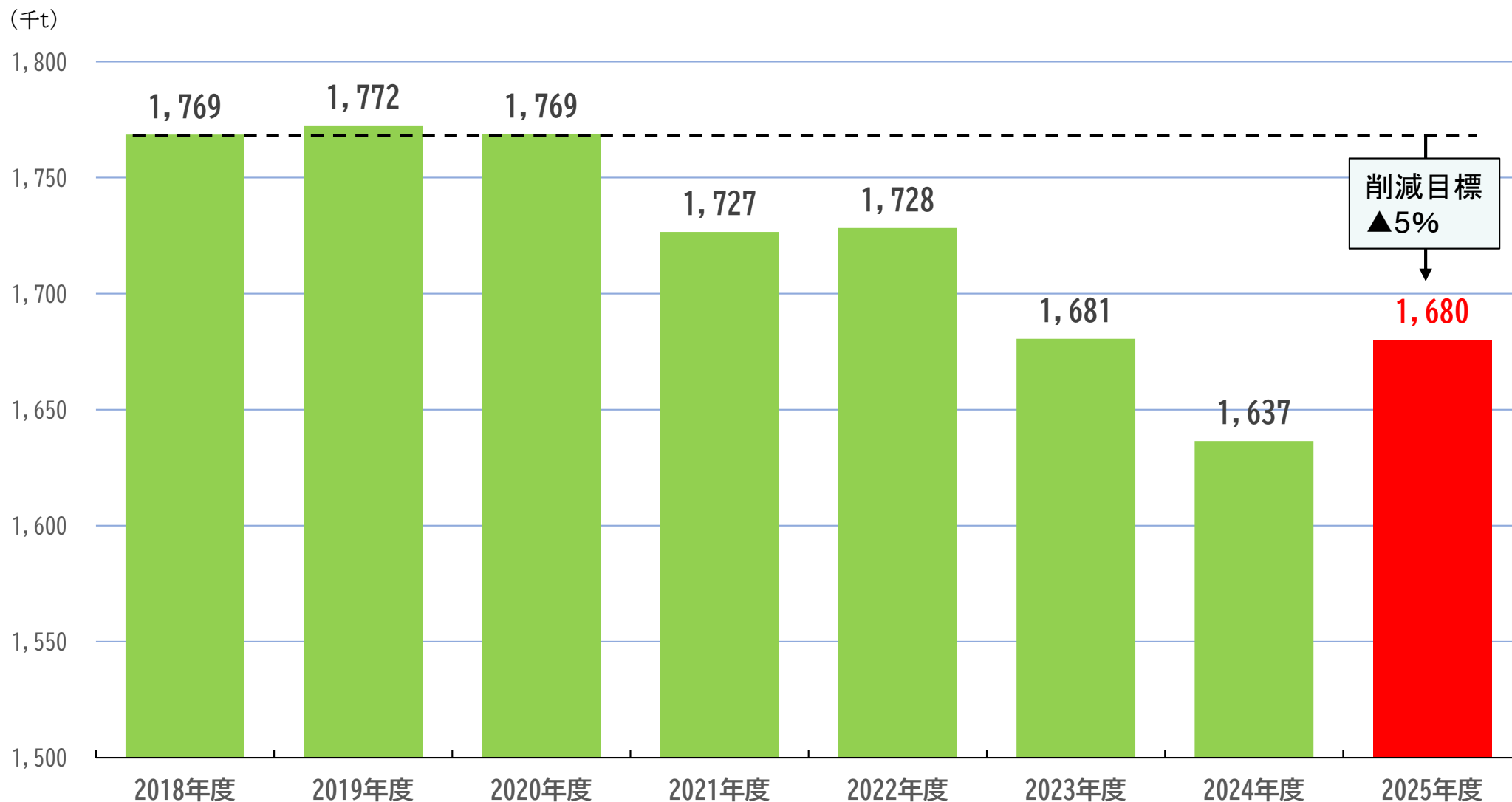
3-7. 再生可能エネルギー発電設備導入容量の推移



出典：福岡県環境部脱炭素社会推進課 調べ

○ 2024年度の再生可能エネルギー発電設備導入容量は338万kWであり、部門別目標の達成に向け順調に推移してきたが、近年の伸びは鈍化

3-8. 一般廃棄物の総排出量の推移



○ 2024年度の一般廃棄物の総排出量は1,637千トンであり、当初値(2018年度)から7.5%減少(部門別目標を達成)